

令和2年度第2回
平戸市総合戦略推進委員会
議 事 録

と き：令和2年10月30日（金）13：45～15：40
と ころ：平戸市役所 3階会議室ABC

開催日時	令和2年10月30日(金) 13:45~15:40
開催場所	平戸市役所 3階会議室ABC
出席委員 (50音順、敬称略)	赤木望、井上翔一郎、白石くみ子、田上和利、辻秀敏、 林田裕之、福田章、町田和正、松山芳弘、村上則夫、山邊幸一、 山本洋一(12名)
欠席委員 (50音順、敬称略)	岡田眞、長崎屋容子、山中兵恵(3名)
事務局 (財務部企画財政課)	村田部長、田中課長、藤山班長、浦川主任主事
事業担当課長	健康ほけん課：池田課長、子ども未来課：伊藤課長 地域協働課：白石班長、生涯学習課：岩永課長 教育総務課：石山課長、学校教育課：山口参事監
次第	(事務局)
1 開会	
2 会長あいさつ	村上会長あいさつ
3 議題 (1) 平戸市総合戦略について 委員 担当課	<p>【基本目標3 子育て支援】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>71ページの乳幼児健診受診率が97.5%だが、100%にならないといけないのではないかと思います。親への指導などは行っているのか。また受けていない理由はなにか。</p> <p>受診率100%を目指して対応している。まずは何度か個人通知を行い、それでも来ない方には必ず面談をして子どもの成長発達を確認している。会うことができない子どもはいない。健診は、医者による診察をしていただくことが条件になるので、この数字には挙げられない。診</p>

	<p>察も集団で行うため、日程も決まっていることから2～3%の子どもは受けられていない状況である。健診に来ない方の理由は仕事の都合など様々だが、子どもの体調の関係で定期的に病院に通院している方は、手厚く医療のチェックを受けていることなど、そういった方々は受診していない。</p>
委員	<p>子育てに関しては、通知もしっかり来るし、子どもや母親をケアする体制はきめ細やかで、市役所の担当者と顔見知りになるくらいの距離感であるし、都会と比べると非常に良いと感じている。出産に関する助成もありがたい制度である。移住にも絡むが、都会の人々にしっかり情報発信を行うことが非常に重要である。福岡の知人は、保育や出産について行政からの支援をそこまで期待していないように見受けられる。都会は選択肢がたくさんある贅沢な状況だが、平戸は選択肢があまり無いものの行政の支援は手厚いし、しっかりと受益できる環境にあると思う。産婦人科が無いという問題は、実際に平戸に住んでみると大変だなと感じる。出産前の定期的な健診も片道1時間かかってしまうし、生まれるときもおなか痛くなってから同様の時間をかけて産婦人科まで連れて行かなくてはならない。産婦人科の環境は、行政として整えていく動きが必要であると思うし、そういう動きがあれば教えていただきたい。</p>
会長	<p>平戸市として、産婦人科に関する動きや考え方は何かあるか。</p>
担当課	<p>平戸市も、過去には産婦人科があったが今は無い。産婦人科を開業するには、需要が大きくなければできないので、市内での産婦人科の開業の動きは今のところ無い。市内のドクターが不足しており、かつ高齢化している状況にある。</p>
事務局	<p>情報発信については、これまでも本委員会で度々指摘を受けているところである。行政の情報発信としてはホームページやフェイスブック程度のものであり、それ以上の手立てを行うことができていない。本</p>

	<p>市で取り組んでいるシティプロモーション推進事業で、アドバイザーが担当課と話をしながら、どうすれば効果的な情報発信をできるのかということのを洗い出すように聞いているので、そこを踏まえて情報発信に取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>平戸市で、大学に進学するときの支援を行う育英会のようなものはあるのか。</p>
担当課	<p>平戸市では、高校生と大学生向けの奨学金制度を設けている。中学校や高校に制度案内を行い、5月の審査委員会において所得基準等の審査を経て決定している。また、居住によって差別化した支援を実施している。</p>
委員	<p>大学は、月額でどれぐらいの支援なのか。長崎県の育英会による支援は49,000円程度だったと思う。大学卒業後、長崎県に帰ってくると返済免除など良い待遇があるので、少しは県内に帰ってきてくれる人数にも良い影響があると思う。平戸市にも同様の制度があるのか。</p>
担当課	<p>大学については、無利子で4万円を貸し付けるほか、入学準備金が必要な方には一時金として30万円を貸し付けることも可能である。旧生月町の制度を引き継いでいるもので、高校を卒業して地元の第一次産業に従事することを条件としているものがあるが、市町村合併後の奨学金貸付実績はゼロである。UIターン者に関する奨学金制度については、教育委員会だけではなく全庁的に取り組むべきという意見もいただいているし、他課において検討の動きもあるので、今後も引き続き前向きに取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>市民に、制度に関する情報が伝わっていないということはないのか。</p>
担当課	<p>情報の周知は公報で行っており、高校にはチラシを配布している。新たな取り組みとして、奨学金の予約制度を取り入れた。これまでは、大</p>

	<p>学に進学決定した3～4月に申請を受けていたが、この時期には大学進学に向けた動きがあるので、11～12月に予約を募集し、1月に審査して入学前に必要な入学金などへの支援をはじめたところである。</p>
委員	<p>平戸に帰ってきて就職しても、一次産業でないとメリットはないということなのか。</p>
担当課	<p>そのとおりである。</p>
事務局	<p>一旦平戸から出て帰ってくる場合の貸付金返還の免除については、国が制度を拡大して交付税措置を行うことになっており、教育委員会とともに制度設計ができないか内部で検討しているところである。</p>
委員	<p>子育て支援の予算を全て足したら、3億8千万円くらいになっている。最終的に平戸に帰ってきてほしいという思いが私たちにはある中、毎年このくらいの予算をかけて費用対効果はあるのか。親世代には、本当は子どもたちに帰ってきてほしいという思いがあるし、これだけ支援を厚くしているので、その思いが伝わって子どもたちが帰ってくる仕組みができないのか。平戸に帰ってきて家を建てたら8割補助とか、実現性は無いだろうが、帰ってきたらすごいメリットがあるのであれば子どもたちも帰ってくるのではないか。</p>
会長	<p>現状を打開するには、これまでの枠や型を超えた発想が必要である。学生は、あとで返さなければならない給付金ではなくて、返す必要がない給付金を望んでいる。大学の場合は、様々な企業が成績などの要件付きで給付金制度を設けている。平戸のほうでも、奨学金ではなく給付金という形で支出して、人を育てるという意味では、ここまでやるの、というぐらいの形があっても良いと考える。</p>
委員	<p>KPIで、子どもを育てるための環境の良さに対する満足度が49.3%となっており、子育てをしていく上で経済的負担が大きいと思う人の</p>

	<p>割合も高く、これだけ手厚くしているのにこの程度の満足度しかない。以前は所得に応じて保育料も支払っていたりした。支援をしたら、もっと支援を、という形にもなるので、このアンケート数値はあまりあてにならないのではないかと思う。いまの子育て世代が満足していないから、子どもたちも平戸に帰ってきてもらいたくない、となっているのではないか。</p>
<p>会長</p>	<p>私もこの部分は気になったところである。69 ページの合計特殊出生率は高いのに、女性の人口は急速に減少しているという一面もある。平戸市は、子育て支援は頑張っている自治体であるという印象があるが、市民アンケートの結果がこのような形だと、広報の問題はあるのではないか。ここを打開すると、アンケート数値も上がってくるのではないか。</p>
<p>担当課</p>	<p>行政としては頑張っているが、産婦人科の問題など行政の手が行き届かない部分でのニーズに対する社会資源の充実度に対して、このようなアンケートで評価されているのではないかと感じている。</p>
<p>事務局</p>	<p>補足だが、このアンケートは昨年4月ごろから行ったものであるが、市内の20～59歳の市民から無作為抽出して実施している。つまり、子ども子育て世代ではない方々にもアンケートに応じていただいているので、現在子育てをしている方々に特化したアンケートを行えば、このアンケート数値は上がってくるのではないかと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>86 ページの地域めぐりあい創出事業で、さきほどの説明でカップル成立が14組ということだったが、平成30年度と令和元年度で実際に結婚したのは何組か。</p>
<p>担当課</p>	<p>平成30年度は1組が結婚し、令和元年度は1組が交際中である。毎年1組程度が実を結ぶという現状である。</p>

委員	<p>事業実施に係る課題及び改善点の中で、特に女性の参加者を集めるのに苦労しているとあるが、人を集めるのが目的なのか、と感じてしまう。めぐり逢いの場を作るということであれば、例えば市内の複数の企業の中で、めぐり逢いの意向を持つ方々を集めて結びつけるような仕掛けをするのが良いのではないか。まちづくり協議会の中でもやったりする方法もあるのではないか。また、楽しんで参加してもらうことも必要だと思う。</p>
担当課	<p>市内のまちづくり協議会の中では、婚活イベントを積極的に行っている協議会もあるし、県でもお見合いシステムといってタブレット上で相手を探す形ができるようになっており、相手が見つかったときのサポートの役割について、数人のまちづくり協議会の方が研修を受けたうえで担っていただいている。企業間の件については、昨年度から長崎県でウィズコンというのが始まっているが、同じ企業の中で3人以上のグループを作って県に申請し、企業間の男女で出会えるようなシステムになっている。同じ企業の中で3人以上のグループを作れないところもあるが、県が改良を行うようにしている。</p>
会長	<p>佐世保市では、婚活イベントを行うと千人以上集まる。中年既婚者でも参加できるが、必ず独身者を連れて行かないといけない。だが、成婚率はほとんど無いということだった。人集めよりも中身だと思う。91ページのKPIの2段目、全国学力状況調査が出ているが、目標は全国平均以上のところ残念だが平均以下である。ICT教育推進整備事業も事態の流れとして進めていかななくてはいけない中、平戸市として学力を引き上げていく施策はないのか。</p>
担当課	<p>学力向上は、これまでも課題であった。ICTを整備したから学力向上すべきという声もたくさんいただいている。ただ、ICTを入れてもすぐには学力向上に結び付かない。各学校に、学力を向上させている先生が存在しているが、その先生に参集いただいてどのような方策を用いているのか協議し、それを各学校に持ち帰り、さらに学力を向</p>

委員	<p>上させようということに取り組んでいる。その結果、この2、3年、学力は向上しており、国や県の学力調査でも向上してきている。</p> <p>これまで、都会の中でかつ教育に関心があり、教育に相当のコストをかけている家庭を見てきた。平戸でも教育に関心がある家庭は通塾しているが、都会と比較すると、平戸は学力が相当低い。都会と平戸の子どもたちに、そもそもの能力に差があるとは思えないが、同学年の学力を比較すると相当低い。学校の先生の教育スキル向上の取組みは大事であるが、先生の教え方が悪いから平戸の子どもたちの学力が低いというわけではなく、日々学習する環境や習慣があるかということである。都会で通塾している子供たちは、小学生でも1日3時間の学習を行っており、そうしないとカリキュラムについていけなくなるし志望する中学校にも行けない。では平戸市にそのような目標や環境があるかということ、全く無い。目標に向けて勉強する文化が根付けばいいと思うが、現状では難しい。教材や環境は塾で提供しているが、そこに応じていただける家庭は一部を除きほとんど無い。一つの塾だけで改善していくことに限界を感じている。学校と連携して、学力をつけることが将来につながっていくという意識を早く社会全体で作っていかないといけない。</p>
会長	<p>基本目標3だが、子育て支援については行政の手立ても進んでおり、実施事業も継続としているのが多いので、今後も事業継続による成果を出していただきたいということで、まとめさせていただく。</p> <p>【基本目標4 定住・移住の促進】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p>
会長	<p>103 ページからの部分を確認いただきたいが、市外からの移住世帯数が目標値を大きく上回っており、大変すばらしい。ただ、これからも平</p>

委員	<p>戸市に住み続けたいと思う人の割合が、目標値と実績値に乖離がある。平戸の方々の中には、自分が住んでいるまちがどんなにすばらしいのか気づいていない人もいるかもしれない。</p> <p>定住促進対策事業で、68 世帯 118 人の方が平戸に来られているが、年齢層はどうなっているのか。</p>
担当課	<p>Uターンで 68 人、Iターンで 50 人となっている。Uターン者のうち 70 歳以上が 5 人、60 代が 13 人、50 代が 9 人、40 代が 5 人、30 代が 19 人、20 代が 3 人、20 歳未満が 14 人となっている。Iターン者のうち 70 歳以上が 2 人、60 代が 5 人、50 代が 5 人、40 代が 7 人、30 代が 11 人、20 代が 9 人、20 歳未満が 11 人となっている。</p>
委員	<p>U I ターン者がこれだけ多い中であって、平戸に住み続けたい人の割合が低い原因は何か。また、Uターン者は実家の仕事があったりすると思うが、Iターン者が生活していくためには仕事が必要である。仕事のミスマッチがあるなか、何らかの施策を考えていく必要があると思う。</p>
事務局	<p>まず平戸に住み続けたい人の割合については、基本目標 3 の際にお答えしたように全体を網羅した形でアンケートを作成し、昨年度に実施している。産婦人科が無いことや、働ける場所が少ないなどの要因により割合が低くなっているものと思う。それらを踏まえて各担当課が取り組んでいるところであるが、数字の改善までには至っていない。</p>
担当課	<p>希望する職種が少ないということは承知している。県全体においても仕事のミスマッチが続いているということで、来年に向けて県も就職相談に力を入れていきたいということである。本市も県と連携強化を図っていきたい。</p>
委員	<p>路線バスの停留所を作ってほしい場所がある。また、通学路に街灯が</p>

	<p>ない場所もあり、地区などにも話したりしているがなかなか実施につながらない。街灯については、電気代は少額であるがその負担も難しいとのことだった。こういう場合に対応してくれるところは無いのか。</p>
<p>委員</p>	<p>移住してきて、独特だなと思ったのが区に入ることであった。区の会議で、出席者から歩道橋設置の意見が出たが、そこは県道なので挙げられないというやりとりだった。都会の人が移住してきた場合、地域のしがらみが嫌で出ていく人もいるのではないか。区長とはどのような存在なのか。行政としてどのような形で陳情要望を受けるのか。</p>
<p>副会長</p>	<p>都会で例えるならば、区長は自治会長である。要望は、挙げてはいけない要望はなく、様々な要望が挙がってくる。県道であれば市から県に進達を行う。</p>
<p>委員</p>	<p>私の地区にも、夫婦が移住してきた。畑を借りてゆっくり暮らしたいようだったが、そのようなスタイルを地区民がよく理解できず、結果的にその夫婦は出ていった。移住を受け入れる側も、相手を理解してやらないといけないと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>絆があり、地域を守ろうという意識が強すぎるが、他所の方々はそれを承知で来ていただき、良いことも悪いこともあるだろうが徐々に慣れていただくほかないのではないかと。受け入れる側も、寛大な気持ちを持って移住者を迎え入れ、お互いが理解しあえればうまくいくと思う。最初は、受け入れる側がふれあいの場を作ってやるのも必要だと思う。U I ターン者が増えているが、その方々が愚痴を言い合える場などの場を作ってやるのも必要ではないか。平戸に戻ってきて起業する方もいらっしゃるが、市と商工会議所や商工会が一緒になって商売上の悩みを言える場を設けることができたらいいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>都会で仕事を辞めて、平戸に帰ってくる理由を聞くと、割と年齢が若</p>

	<p>い方は毎日の通勤や職場内での競争に疲れて帰ってくる方が多いように感じる。40代以上の方の場合は、親の面倒を見るために帰ってくる方が多いと感じる。UIターン者の中には、田舎の慣習への対応や近所付き合いが苦になる方もおられると思う。現在、どこの自治体も様々な支援策を実施しているので、支援策に関する情報発信、特にSNSの発信が重要だと思う。若者の中には、SNSでしか情報を得ない方がいるので、発信を工夫すれば施策も前に進むと思う。最近テレワークやリモートワークのことをよく聞くが、都会のIT企業では完全リモートワークで業務を行っているところも多いと聞き、アパレル業界でもリモートでの接客を導入するところも増えている。平戸に移住する方も、そのような形で働く方が増えるのではないかなと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>123ページに、KPIとして市ホームページの移住ページアクセス数が挙げられているが、閲覧者が多いことがわかる。閲覧した時に魅力を感じられるホームページ作成が必要だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>ホームページもそうだが、LINEやYouTube、ツイッターなどの発信を増やした方が良いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>高齢者のいきいきおでかけ支援事業だが、郵送での手続きを実施したのは大変良かった。ただ、一人暮らしの高齢者から、市役所からの文書がわかりづらいと言われるので、お年寄りに分かりやすい文書になるよう工夫していただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>基本目標4だが、数値目標やKPIは厳しい結果になっているところもあるが、定住移住についてはまだ成長の芽があるので、引き続き事業を継続いただき、成果を出せるよう内容を精査いただきたい。</p> <p>(会議終了)</p>